

元旦メッセージ-第 1.2.3RUTC の実現
第 1 講：古い枠を壊すべき（Ⅱコリント 5：17）

***序論**

▶アメリカは非常に発展した国です。日本も非常に発展した国です。私はそれゆえに海外に行くわけはありません。アメリカに行ってみますと、絶対に隠された、隠している問題があります。日本に行っても同じです。その部分について知らせるために行っています。なぜならその問題は、福音によるのみ解決できるからです。他のことでは解決されませんので、福音だけが解決できるので、それを伝えるために行っています。

▶私はこのヨンドに来る前に 6 つの教会に仕えていました。行く所々の教会において見て悟ったことがあります。それはなにかと言いますと、ほとんどがうまくいかない条件を持っています。それゆえ、当然ながらうまくいきません。それを直していくために少し仕えていきました。主が、聖霊が働かれたのです。ヨンドに来てみても、うまくいかない条件だらけでした。それをわかった上で、少し変えていったのですが、御働きが起きたのです。そして、これは傲慢ではありませんが、ソウルの方に行っても研究してみました。これからずっと問題が来るだろうなという条件ばかりでした。だから、問題が来るしありませんでした。そんな中でいま、世界の教会は減っています。そのたびに、神様は、多くの災いを止めるために多くの伝道者を起こして立てました。

▶「第 1.2.3RUTC 実現」

さて、今年の主題は「第 1.2.3RUTC」、この運動を「実現」させていこうということです。実現させていくためには、どうしたらよいのでしょうか。うまくいかない条件、つまり、古い枠があります。これを壊さなければなりません。どんなに立派な人であってもうまくいかない条件があるなら、絶対にうまくいきません。皆さんのビジネスもそうです。伝道もそうです。うまくいかない枠があるなら壊すべきです。

▶なぜなら、私たちはすべて新しくなりました。Ⅱコリント 5:17、私たちはキリストのうちにあり新しいものなのです。昔のもの、過去は過ぎ去りました。見よ。すべてが新しくなりました。象の中にも山で暮らす象がいます。サーカスなどにいる象などは、人にいろいろな所に連れて行かれるのですが逃げません。絶対に逃げないそうです。なぜなら幼い時からサーカスのために縛られて育てられたからです。大きくなれば力もあるはずですが、自分の力でどうにでも逃げられるそうなのですが逃げていきません。その象がやっていることは決まっていることだけです。死ぬときまでただサーカスのショーをやって足を上げたり下げたりして死ぬでしょう。自由に山や野原を走るようなことはできません。言葉だけ象なのですが、実は象としての生き方はできていません。昔、映画を見たのですが、猿を捕まえるのに簡単に捕らえていました。箱を作りまして吊り下げていました。ちょうど猿の手が入るようにして、おいしいものをつかんで食べるようにしておきました。そして、猿が来て、自分の手を入れておいしいものを取ります。でも、捕らえられてしまいました。ハンターが来て自分を捕らえようとしているのにもかかわらず、手を抜こうと引っ張っています。食べ物を離せば手が抜けるのですが、それができず続けて食べ物をつかんでいる状態でした。猿はいろいろな動物の中でも賢いと言われているのですが、それはできませんでした。カエルがどんなに泳ぎができていても、井戸の中にいるだけならば外に出ることはできません。外に出てこそ世界が見えるのです。

▶さて、これらの例えを挙げましたが、今まで私たちは多くの恵みを受けました。今回もメッセージをよく見ていただきたいと思います。序論に入りたいと思います。重要なところです。

▶序論

1) イスラエルはどうして滅亡を受けてしまったのでしょうか。(7 つの災い)

▶なぜイスラエルは滅亡を受けたのでしょうか。しかも 7 回も災いに会いました。この災いの中でも少数の人たちが福音を持って人々を救いました。滅亡の中でも福音があった少数の人が世界福音化したのです。

(1) 選民、主、メシヤ

▶それらの人々を見ていきましょう。イスラエルの人々は、私たちだけが選民だと思っていました。あなた方は選民ではありません。この選民思想を壊さない限り、彼らはいつまでも殴られて死ぬ民族です。いつも持っていました。選民思想を。

▶そして、ヤーウェの神、主は、イスラエルの神である、このヤーウェの神は私たちの神である、という思想だったので、伝道と宣教をする意味が分からなかったのです。これがイスラエルの人々の枠でした。

▶彼らは、他の国をすべて粉々にしてしまうようなメシヤが来ると思っていました。

(2) 制度、伝統

▶そして、彼らは、神様のみことばよりもいろいろな制度や伝統を固く掴んでいました。ですから、イスラエルの民は苦しみを受けるしかありませんでした。

(3) 日（安息日）、律法

▶こんな中で日にちを重要視していました。つまり、安息日を守ることに命をかけたのです。これがイスラエルの人々の信仰でした。さらに、安息日を守らない人は死刑にさせたのです。しかし、聖書ではそのように書かれていません。聖書は、すべての日が神の日であると教えています。ただ私たちが、日曜日に集まって一緒に礼拝を捧げるという意味があるのですが、月曜日も火曜日もすべてが主の日です。

▶もっと恐ろしいのは、この人々は、絶対に福音を知ることができない律法だけを固く掴んでいたのです。神様は、イスラエルの国に福音を与えました。全世界にそれを伝えなさいということで。でも、この部分の枠がある限りうまくかないので、世界中で捕虜にし、奴隷にし、散らしたのです。それでこそ世界福音化がなっていくからです。

▶このような話をしますとよくないと思うのですが、私はその人たちに会ったらぜひ話したいなと思っています。飛行機に私はいつも乗っています。アジアナ航空に乗るとうまくいかない条件があると思います。だからといって大韓航空が良いわけでもありません。大韓航空はピーナッツ事件がありましたし...。どれだけアジアナが良くないかと言うと、湖南という地域の首都は光州です。この光州空港のラウンジまでなくしてしまいました。なぜなら経営がうまくいかなかったからです。私はある時、アジアナ航空を利用したとき、そのスタッフに話してあげました。そういう部分について話すと、「はい」とは言っているものの、あまり伝わっていないような気がしました。アジアナ航空の国内線を利用した場合、時間通りに行ったことは一度もありません。だから、重要な約束のときにアジアナに乗ってしまいますと、大変なことになります。私は飛行機にとってもたくさん乗りました。とてもたくさん乗ったので、大韓航空のスタッフは、私を皆知っています。他の牧師先生には申し訳ないのですが、私が大韓航空に乗りますと、私を別に案内して連れて行きます。ラウンジまで私を導いてくださり挨拶もして行かれます。次の人が入ってくる場合もあるでしょう。すると、ああ、牧師先生はいつでも一番奥の座席に座られるんだと、そこまで配慮して他の人が座らないように案内もして下さいます。アジアナ航空は違います。あれだけたくさん乗っているのに、そういう待遇はありません。ただ単に入り口で挨拶して終わり、差が大きいです。自分たちの運営、経営の枠を壊すことができません。

▶また、私がソウルにいて釜山の方に行きますと、釜山の人はいつも怒っているような気がします。皆さんの表情と似ているのですが、いつもイライラしているような感じに見えます。ホテルも一流ホテルに行ってみれば、従業員が違います。非常に顔つきもよく動作も早くきれいでエリートっぽいです。でも、地方のそういうところに行きますと、挨拶もろくにできないところもあります。ただ単に周りが見えていないで、わざとしているわけではないと思います。例えば、わざとお客さんが来たときにはよくない顔をしようとは思っていないはずなのですが、なにかに気づいていないのです。

▶この枠を壊さなければなりません。イスラエルが自分たちの枠から離れることができないので苦しみに会うしかありませんでした。

2) 教権・有益

▶韓国には多くの教権があります。この強権の人々は、いつも有益しか考えません。

(1) パリサイ人→初代教会

▶パリサイ人を見ても彼らはパリサイ人なりのいろいろな有益があったはずですが。パリサイ人という言葉は、私たちは福音と考えるから良くない言葉に見えるかもしれませんが、でも、パリサイ人というのは本当に区別された階級の世界の人でした。彼らはその当時、区別された偉大なる人でした。だから、パリサイ人に会ったということは有益なことがたくさんあるという意味です。自分たちのそういう事によって国が滅びることがあってもわかりません。パリサイ人の枠の中に閉じこもって、教会が滅びてもわかりません。

▶そんな中で神様は初代教会を誕生させます。このパリサイ人の枠から抜け出す初代教会を誕生させました。

(2) ローマ教会→改革教会

▶さて、この初代教会は、時間の経過とともにどうなりましたか。なんと中世時代にローマ教会に変わ

ってしまいます。この枠から離れることができませんでした。ですから、神様は後に改革教会を誕生させます。

(3) 力→災い

▶ところで、改革派教会がとても大きくなりました。あまりにも大きいので、教権が出てきます。強権の力が勢いよく上がり、団体の力がすごく強まりました。教会の力が大きくなるので、災いの時代を迎えてしまったのです。全世界の教会が、門を閉じる災い時代が来てしまったのです。

3) 教会、ポジション - 枠

▶これらの勢力を止めるのは教会のほかはありません。皆さんは、教会の重要な部分を見えるようにしなければなりません。この1年も今日で終わりますが、新しい年、また一生涯という人生があります。教会はどんな枠にいま閉じ込められているかと言うと、ポジションです。自分のポジションに閉じこもっています。初代教会を例に見てみたいと思います。

(1) 教役者、重職者、信徒=関係→「現場牧会」

▶例えば、教役者、重職者、また多くの信徒、この方々の関係をご覧ください。この3つの関係について悟れませんか、多くのことを逃してしまいます。

▶私は今日、副教役者に会って、こういうお話をしました。イエウオン教会にはモリスという牧師先生がいます。韓国語が上手です。その先生が、イエウオン教会を出ると言いました。これからは自分の国であるイギリスの方でやると。どうしてそういうことになってしまったのでしょうか。モリス牧師先生は、自分が出たほうが良いと思ったからです。教役者と重職者と信徒は、現場中心の牧会をしなければなりません。現場牧会です。教会内部の自分のポジションと関係なく、現場中心の現場牧会をしなければなりません。モリス牧師は、現場牧会がうまくいかなかったということです。だから、いつかは出ていくはずですよ。出ていかななくてもよいシステムが教会の中になければいけません。ソウルには佐土原先生がいます。日本人で牧師であり使命者です。韓国に来てよき働きをしています。いつかは出ていくでしょう。出ていったとき、いつか苦しみが来るでしょう。そういう状態で生まれてくるのが未自立の教会です。こういう教会がいま90%あります。

▶皆さんがこういう部分についてよくキャッチできませんと大変なことになります。教役者、重職者、信徒、現場牧会の重要性が分かりませんと、お互いの関係がわからなくなります。初代教会の重職者は、完全に現場を生かす司令官の役割をしました。この言葉がよくわかりませんと、教会のポジション、枠が恐ろしいものになります。でも、皆さんがこの言葉を理解しますと、本当に答えられるようになります。

(2) 重職者 - 産業

▶これらの内容がわかりますと、重職者の産業が祝福の中で起き上がるようになります。現場で牧会が起きなければなりません。

(3) 信徒 - 力

▶多くの信徒の本当の力もここから出てくるべきです。教会の復興も、実は現場牧会から出てこなければなりません。

(4) 伝道 - 復興

▶伝道という復興もここから出てくるべきです。

(5) ミッション - 弟子

▶宣教という祝福もここから出てくるのです。全世界に出て行って、弟子にしなさいというのも、ここから出てくるのです。

▶現場牧会という意味がわかりませんと、今日、副教役者に言いました。あなたがたは、この意味がわからないと一生涯、ただ教会に仕えるものになって終わってしまう。あなたがたの牧会をやりなさい。このようなスペースが教会の中にはありません。現場牧会という意味がわかる堂会長や主任の牧師先生、果たして何人いるのでしょうか。この教会の意味がわかった教会が一つあります。アメリカのカルバリ教会です。一番大きな教会です。世界に派遣していますが、何の問題もなく教会の運営をされています。

▶皆さんの産業も、皆さんの力もどこからそれが出てくるのかということを知らなければなりません。ですから、皆さんは早く教会の枠から離れるようにお願いします。そして、この意味がわかりませんと、本当の答えを見出すこともできません。神様は多くの祝福を与えてくださいましたが、私たちが枠の中に閉じこもっているのを見えないのです。

▶私が副牧師であったとき、現場では次のようになりました。私が教会に来れば自分が任されたパートが決まっています。長老の方々も自分の担当があります。来年になれば、年が変わるたびに変わります。そのようなやり方では、何の答えも出てきません。また、教役者は教会でやりなさいと言われたことを

やって1年が終わってしまう。そのような教役者は、頭の中でいつもこういうことを考えます。いつかは、私はこの教会を出て、自分のなにかをやると思っています。そういう状態で教会を出て外で開拓して、未自立の教会が90%生まれています。皆さんは現場で自分の牧会をしなければなりません。では、現場牧会ができるように、教会側は教役者に許してあげるのでしょうか。実は可能なことなのです。

▶私が副牧師のときに、教会が喧嘩をしてしまい信徒が外に出ていってしまいました。みなほとんどが出たのですが、残っている人で本格的な現場を生かす運動をしたのです。後に振り返ってみると、このままでは大変だということになりました。前の人たちがみな喧嘩をして出ていったから、残っている人を柳光洙牧師が訓練させて福音運動が起きている。だから、この人たちは皆、柳光洙牧師の弟子になってしまった。柳光洙牧師が外に出ると弟子たち全部がついて出ていくのではないかと考えてしまったのです。以前に信徒たちが出ていってしまった傷があるから、私の伝道に対する見方もそう見ているから、主任の牧師先生がその言葉に耳を貸してしまったわけです。私はその教会で副教役者だったので自分の意見を言いません。すると、教会側が私にオーダーを出しました。あなたはもう青年部をやらないうにということでした。あなたは今後、アンチャンという町に行って伝道運動をなさいと言われました。いまはアンチャンというところは良くなりましたが、その当時のアンチャンというのは、住宅の許可が下りていない人たちが、本当にすごい人たちがそこに住んでいました。住宅の許可も下りていないくらいの状態です。そこに行って働きをなさいと言われました。私はわかりましたと、そこに行きました。それで本格的な伝道運動をしたのです。未信者の6つの状態がありますが、そのメッセージはそのアンチャンから誕生したのです。後には、私は元々、青年部を担当していたので、青年部の人たちが揺れました。青年部の人たちがいろいろと弱くなってしまったので、再び教会側は、また青年部に戻って青年部をお願いしますと言われました。そのとき私は主任の牧師先生にこういう意見を出しました。先生、教会の中に使命者がたくさんいます。教材は私が作りますから伝道学校をしましょう。すぐに教会はそれを受け入れてくれて復興しました。

▶一ヶ月過ぎたあとに、いまこのヨンドの教会、東三第一教会からのコールがあったわけです。パク・ウンギョ長老からそのような申し出があったのですが、私は言いました。主任牧師に話をして、主任牧師が許可をしてくださったなら行きますと。それで当時の教会に言いましたら、待っていたかのようにそこに行きなさいと言われて、私はヨンドに来ることができました。私が教役させた信徒さんがいましたが、だれひとりついて来ませんでした。うつ病を患っていた一人が来ましたが、元の教会に返しました。

▶私たちは古い枠の中に閉じ込められ、なにもできずにいます。昔の枠を壊すべきです。いまから私たちは教会建築を考えなければなりません。正直、言語別に237カ国全部を区別することはできません。でも、237カ国の言語別につどいができるようなチャペルが必要です。自分たちの牧会ができるように用意しなければなりません。また、これから教会建築をしますと、長老の方々が自分の地域を生かせるほどのかなりのスペースが必要になります。そして、多くの副教役者がいますが、自分の現場牧会ができて多くの人を生かせるようなシステムを教会の中に作らなければなりません。私がこの話をしている理由は、全世界の教会はいま大変な危機が来ています。このようなスペースがなければ、大きな教会だとしても一つの世紀が終わったらまた終わってしまいます。すると、次世代、若者はどうしたらよいのでしょうか。私は単純な伝道運動をしようと言っているのではありません。本当の伝道運動をしたいのです。皆さんの産業も同じです。私たちが枠を壊してこそ新しいものを整えることができるのです。いままうまいかない条件があるなら、全部壊してください。

▶そこで今年は3つのシステムと言ったのですが、特に伝道現場、ビジネスも同じです。例えば、保険屋さんがいて、知っている人ばかりに訪れて保険を説明しても、それはうまくいきません。6ヶ月持ちません。営業マンがいつも知っている人ばかりに訪ねて行きますと、その人の営業は1年以内に終わります。伝道キャンプをやっているときに、私たちの教会の信徒ばかりに会っていきまると、その信徒の水準で全部終わってしまいます。そして、ストップします。私が行かなければならない現場で見つけて育てなければなりません。だから、私は①異なるシステムとしました。いくらでもあります。その次は②単独システムです。それは何でしょうか。私たちがキャンプをやったあとに、残っている信徒の人が自力でやっていけるようにしてあげることです。そして、③第3のシステムとは、ものすごいシステムがいま死角地帯のまま残されています。産業も学業も同じです。しかし、うまくいかない条件ばかりを揃えています。この枠を全部壊していくべきです。

▶区域礼拝と言っていますが、この区域の制度を誰が作ったかというジョン・ウェスレーが作りしました。ジョン・ウェスレーの教理は、私はあまり気に入っていませんが、彼は聖書をよく見ました。そして、釜山にかつてベク・ヨンイク牧師がいらっしました。教会が大きかったです。その教会が地域

を完全に掌握しました。だから、イエウオン教会、またインマヌエル教会は、この部分を考えていかなければならないと思います。もちろん小さな教会も同じなのですが、考えなければなりません。私は、ヨイドの純福音教会の教理や神学を受け入れることはできません。しかし、その組織はすばらしいです。そのヨイドに行ってみたときは、9つの教区がありました。ヨイドという教会の中に、9つの大きな区域がすべて入り込んでいて、区域別のチャペルが別々にありました。だから、十分な現場牧会ができます。何十万人が集まるしかないでしょう。けれども、後に人々を管理することには失敗しました。しかし、この制度は良くしたと思っています。

▶それでは皆さん、聖書をよくご覧ください。聖書をよく見て、うまくいかない枠は壊していくべきです。これから壊すのに何年もかかるかもしれませんが、皆さんがいま、私の教会がこの危機の時代を止めていくという重要な契約を握らなければなりません。多民族が来たら、その多民族に100回話しても意味がありません。多民族がうちの教会に来た。その多民族がうちの教会内で牧会ができるようにサポートするのは、それが多民族を生かす道です。それにふさわしい建築も準備していかなければなりません。皆さんが、神様が本当に願われる契約を握るならば、主が働かれます。だから、初代教会は、このパリサイ教会と完全に違った教会でした。

▶私たちは新しい枠をどう整えるか、明日話します。それは明日第2講義目で話すのですが、皆さんが受ける答えの部分から確認していきましょう。

▶本論 - 過去の問題-答え→「今日の実現」

今日の本論です。いまお話した序論をよく見てください。過去にあった多くの枠があり、過去の問題があったと思います。この過去の問題には必ず答えがあります。その答えが今日の実現に変わらなければなりません。過去の問題の答えが今日の実現に。過去に問題がありました。答えはこうですと見つけました。その答えはこれだとうなずいて終わるのではなく、今日の実現に変わらなければなりません。そのとき、神様のみわざが始まります。明日の本論は、これから起きる未来が今日の実現にならなければ進まないということです。よくない過去もよい過去も皆さんの過去が今日の実現が変わるとき、神様の御働きが始まるのです。

▶アン・サリヴァンさんは精神疾患者でした。精神疾患で苦しんでいたのですが、後に治りました。完治したかどうか定かではありませんが、とにかく治ったのです。完全なる答えを得たということです。だから、精神病院で一生働くという決断を出しました。その人の下でたくさんの人物が出てきたのですが、その中でも代表的な人が、皆さんご存知のようにヘレン・ケラーです。ヘレン・ケラーという人に作り上げる間、ヘレン・ケラーの親はだめだと言いました。でも、このアン・サリヴァン先生はできると言いました。「親であるあなたは娘さんがよくわかっていない」。親も言いました。「先生であるあなたがわかっていない。私が産んで私が育てているのだから私がよく知っている」「いやいや、そんな教育の仕方はよくありません」。そういう衝突があったのですが変わりました。結局、ヘレン・ケラーは博士になりました。私たちの問題は、今日の実現に変えていくべきです。それでは、いくつかのことを話していきます。

1. 旧約時代の解放

▶この枠から解放されていくのですが、旧約時代の解放を見ていきたいと思います。これを皆さんがわかれば解放されます。

1) 福音 - 奇跡

▶旧約時代は、福音を回復したとき奇跡が起きました。

2) 変化× - 災い

▶しかし、枠からは離れませんでした。だから、変化はありませんでした。奇跡は起きたのですが、変化されていないので、7回の災いが続いたのです。

3) 少数 - 福音持続

▶ここで皆さんご存知のように、少数の人によってこの枠を壊した人が出てきました。その少数によって福音が持続されていきました。

▶これが旧約聖書の話です。皆さん一人を通して、神様は時代を変えます。正確に言えば、これらを知っている皆さんを通して、神様は時代を変えるということです。

2. 新約時代の解放

▶それでは新約時代の解放、それを見ていきたいと思います。新約時代の解放とは、どういう部分だっ

たのでしょうか。

1) ユダヤ人 - マルコの屋上の間

▶完全にユダヤ人の枠を越えてしまった、壊してしまったマルコの屋上の間。これを見なければなりません。私はこれを見て、伝道は簡単なものだと思います。答えは簡単なものだと思います。ユダヤ人の枠を完全に壊しました。なにをででしょうか。ユダヤ人はヘロデの神殿が最高でした。初代教会はマルコの屋上の間で、すべての現場を見ていきました。どちらが勝つことができたのでしょうか。ユダヤ人の中心は、大祭司中心でした。しかし、初代教会はすべての重職者が現場で起きました。どちらが勝ったのでしょうか。ユダヤ人は安息日中心でした。初代教会は毎日のように宮に集まり働きが起きました。だから、生活の中で答えをすべて見つけました。

2) サマリヤ - 重職者

▶初代教会の人たちは、現場ですべての枠を超えましたが、サマリヤという枠を完全に壊し重職者が出てきました。サマリヤという現場はまったく話にならないところに縛られていたのです。サマリヤ人を相手にしてはならないと言っていました。どうしてでしょうか。ユダヤ人はサマリヤ人とは口もききませんでした。しかし、その枠を初代教会の重職者が壊したのです。

3) 産業の枠 - ローマ 16 章

▶そして、見てください。初代教会にあった産業の現場、この枠をローマ 16 章の人々がみな壊しました。そして、学業の現場の枠も完全に使徒 17 章、18 章、19 章の人達によって壊されていきます。▶神様は皆さんにこれらの祝福を備えておられます。

3. 終わりの時代の枠

▶それでは、いまを見ていきましょう。いまの終末の時代にどのような枠を壊しなさいと言われているのでしょうか。神様が皆さんに与えられた契約の祝福です。

1) 門を閉ざす教会

▶門を閉ざす教会の時代を迎えています。この教会を生かすべきです。教会が閉鎖状態なのですが、災いの時代となってしまいました。話になりません。うまくいかない昔の枠の中に閉じこもっているのでもううまくいかない状態です。枠の中にいますと、大韓民国のすべての教役者、神学生は問題だらけです。どちらに行けばいいのでしょうか。俗に言えば何を食べて生きればいいのかということになってしまいます。だから、私はこう考えています。教役者は、重職者と手と手をつないで完全に現場を生かす現場牧会をしなければなりません。その時から重職者の産業も、神様の御働きが起きるようになっていきます。▶私はこのように考えています。教役者の給料も同じように決まっているのではありませんか。例えば、10 個の家庭の働きをされている人と、100 個の家庭の働きをされている人の活動費を同じにあげてはいけません。それは個人が使っても活動に使っても構いません。ひょっとすると大韓民国の数多くの神学生、教役者たちは一生お金の心配をして死ぬかもしれません。そんな心配しないで開拓をしようとしたがうまくいかない、そんな状態です。皆さんは伝道者ではありませんか。この時代の危機を止めなければならぬのではありませんか。だから、教会はいま門を閉じています。これを防ぐ主役としてすべての重職者が起こさなければなりません。日本は教会が 0.1%にもなりません。だから、精神的に患う人たちがたくさんいるのではないですか。この枠を壊す契約を掴まねばなりません。そうすると、神様は働かれます。

▶いまアメリカの一箇所だけを例に挙げます。チェ・ユンジョン勸士さんから私に資料が送られてきました。現在、アメリカで倒産し売却に出された教会が 1,232 個あるそうです。カリフォルニア州で 101 個、ジョージア州 82 個、イリノイ州 62 個、ニュージャージー州 42 個、ニューヨーク 51 個、ペンシルバニア州 50 個、テキサス州 138 個、バージニア州 30 個、フロリダ州 83 個、メリーランド 37 個、ミシガン州 83 個、ミズーリ州 33 個、オハイオ州 66 個、テネシー州に 32 個です。これ以外にもたくさんあると思います。データに上がらなかったけれども、うまくいかないところはそれぐらいたくさんあるということです。キリスト教はこのまま食欲状態になっていいのでしょうか。この枠から完全に離れなければなりません。現場の祝福をすべて置いておいて、自分の場所ばかり考えてもどうでしょう。教会の中の自分のポジションはいくつかしかありません。

▶例を挙げてみましょう。教会の中の聖歌隊の指揮者のポジションは 1 つしかありません。素晴らしい人はたくさんいます。現場で自分が指揮をできる場所を探せばいいのではありませんか。音楽ほど良き伝道の道具になるものはありません。音楽家はなにをしているのでしょうか。現場で現場を生かす音楽家になればよいでしょう。先日、ある病院に行ってきました。ミュージシャンの人たちが集まって病院でコンサートを開いていたのですが、患者さんがとても力を受けたということでした。釜山のグァン

ボクドンというところのデパート前交差点である方が演奏をしているそうです。どの教会から来ているのかという記録はないようです。でも、キリスト教なんとか連合会という文字は見たそうです。非常にレベルが高かったです。皆さんと比べればなんともないかもしれませんが、かなりのレベルがありました。その演奏がとても影響を与えるものでした。舞台もよく作られていたし演奏者もすばらしい。そのストリートでは完全に文化を取り替えてしまいます。

▶私たちは、現場は全部差し置いて、教会の中で毎日自分のポジション争いばかりをしています。だから逃し滅びるのです。教会の中にはポジションはあまりありません。だから、早くそれを越えて現場に向けてください。

▶その枠を越えてこそ本当の世界福音化の答えが来ます。今の時代は教会がドアを閉めています。

2) 未自立 90%

▶この状態なので、より危険なのは、未自立教会が 90%です。今後、さらに閉じるということでしょう。いま持っている昔の枠を完全に壊してしまうだけで御働きは起きます。例えばヨーロッパ、アメリカ、日本のような国が、昔の枠を取り壊して契約をつかめば世界的に福音運動をすることができる国となります。

3) 無応答

▶ですから、当然答えがありません。教会に行ったとしても答えがありません。

4) 病気の時代

▶ですから、人々は霊的病に侵されます。病気の時代です。大変な時代を迎えました。

▶こちらには藤田長老がいらっしゃいますが、日本には本当に精神疾患が多いです。それを治さなければなりません。どうやって治すのでしょうか。枠を壊す人が一人出てくれば治ります。枠の中にいたのではいけません。暗やみの枠、うまくいかない条件だらけの枠の中に、どうしていつまでもいるのでしょうか。早く壊してください。アメリカはもっとひどいです。アメリカは、精神的に患っている人たちが街中に出ています。だから、アメリカでは歩くのにも気をつけなければなりません。精神的なおかしい状態で麻薬までしてしまっています。ピストルも持っています。いつ撃つかもわからないのです。本当に笑ってしまう話です。韓国のある企業家の子どもが、アメリカで勉強をして事業をしていたようなのですが、夫人がちょっと教会に中に入っていった間、子どもと車に乗って待っていました。そして、そろそろ車を移動させなければいけないので、エンジンをかけて夫人が出てくるのを待っていました。そこに車を奪おうとした人が来て、運転席に座っていたご主人の頭を銃で撃って奪っていきました。すると、後ろの席で子どもが泣くでしょう。子どもがいることを知らなかったのです。窓を開けて走っている車の中から子どもを外に投げ捨ててしまいました。麻薬患者でした。怖い世の中です。銃を持ってでかけてなんとも思わず撃つたりします。

▶こんなひどい事件も起きたのですが、教会の門は閉ざされています。ほとんど 99.99%の教会が枠にびったり閉じ込められています。多くの教役者、牧師は一つの職業に過ぎない状態になっています。枠です。信徒は牧師の話をよく聞いて仲良くしていけばいいと思っています。枠の中に閉じこもっています。私たちの教会は違うと思いますが、一般の教会の長老は皆ポジション争いをしています。このような枠の中に閉じこもっているのです。神様の祝福は全部逃しています。皆さんがそれを早く生かしていかなければなりません。

5) 教権時代

▶この状態なので教権の時代が来てしまいました。教権が全部掌握しています。だから、いつも戦っています。

6) CVDIP

▶そして、結果的には、神様からの CVDIP を完全に失いました。このようにして災いの時代を迎えてしまいました。

7) 災い 237

ですから、災い時代がどちらに来たのでしょうか。237 カ国に降り掛かっています。祈ってください。本当に祈ってください。ジョン長老に 237 カ国を担当してくださいと言った理由は、本当に 237 カ国のエリートを育ててくださいということです。今日は時間がないから極端に話します。大人を助けるのはいりません。正確な言葉ではないのですが、ちょっと極端に言っています。なぜなら、時間がないので優しくは言えません。大人だとか事情がある人達を育てるのは全部嘘です。人材を育ててください。お金もかかりません。237 カ国の中の特に後進国は、年間 500 万ウォンあるならばサッカーチームを 1 年運営することができます。このソースは、カチョン大学のイ・フンギョ総長が教えてくださいました。その方の元々の職業は、検察庁で検事さんにもなっていた方で、この方がカチョン大総長にまでなられ

ました。食事の時間、牧師先生の宣教に役立つ話かもしれないので申し上げますと教えてくれました。世界には本当に後進国が多く、そういう所は500万ウォンあるならば1年間サッカーチームを育てることができます。このような国がいっぱいあります。ブラジルはどうしてあれだけサッカーが栄えているのかと言いますと、ブラジル郊外に行けば、一言で言うならすることがありません。遊べる文化がありません。だから、皆ボールを蹴っています。そして、1ドルで生活しているところもたくさんあります。人材を育てるのに、10万ウォンで1年間の学費を賄うことができる国もあります。ですから、私たちは目を開けてください。神様が本当に喜ばれることがたくさんあります。ひとつひとつ私たちが神様のことをやっていると、神様が私たちの責任をとってくださいます。人間の世界も、皆さんが私のために働いてくださると、私も皆さんのために働くでしょう。ましてや神様はいかがでしょうか。

*結論 - モーセ

▶結論をどう下せばいいのでしょうか。いろいろな人を例に挙げることは大変なので、モーセ一人を通してお話してみます。

1) 異なるシステム (ホレブ山)

▶異なるシステムとは何でしょうか。皆さんの事業と学業、異なるシステムとはなにか。いま皆さんは、自分がやっていることは価値がないと思っていらいっしょいますか。いまの仕事をやりながらも、これからはなをしようと考えていらいっしょいますか。このような人が多いです。例えば、ある方は他人の家に行って掃除をする職業の人もいるかもしれません。掃除をしながらも、いつまでもこんなことはできない。いつかはなにかをやると思っているかもしれません。でも、そのような心配はしないでください。そういうことを考える必要はありません。

▶羊飼いとしているということは、確かに良いことではありません。しかし、羊飼いをやりながらも、その時に神様のすばらしいホレブの山の力を体験ができたということです。これが異なるシステムです。これを持っていなければなりません。すべてのレムナントと重職者と皆さんは、本当に昔の枠を壊して世界を生かすこの時刻表を持つ必要があります。

2) 単独システム

▶モーセならではのシステムが与えられたということです。それは単独システムです。モーセだけができる単独システムが与えられました。

3) 第3システム

▶モーセは杖しか持っていませんでした。その杖一本ですべてをやりました。第3システムです。第3システムというのは、だれも行くことができていない、完全に空っぽになっているところです。

▶この第3システムに入ることができる恵みが、資格が、皆さんに与えられています。皆さんが起き上がって滅びるしかない枠を完全に置き替えてください。その現場に神様の契約を植えつけてください。そうすると、多くの御働きが起きます。

◆決断 - IIコリント 5:17

▶IIコリント 5:17、古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりましたと言われました。私たちは今日、どんな決断を下すべきでしょうか。皆さんに3つのことが見えてくるでしょう。

1) Nobody

▶だれも行くことができないところに行くようになります。これが皆さんが握らなければならない契約です。そして、だれも与えることのできない答えを、神様は皆さんに与えています。

▶いま3つのシステムをやっているならば、主がそうしてくださるということです。3つのシステムが重要です。伝道をしている方も事業家もこれを覚えてください。日本人がビジネスをうまくやる理由があります。外国に行くと、韓国人は中古車をただ売っています。しかも、騙して売ります。だから、後に悪口をすごく言われます。ところが、日本人のやり方を見ると、車を先に売るのではありません。まず先に、その国の道路を磨きます。すごいなと思います。道路を先に磨いたあとに、車を売ります。そして、磨いた道路の料金をもらいます。だから、全世界に日本の車が走れるようにしてあげます。すごいな、この人たちはと思いました。だから、これらの人々は、実際に事業もうまくやっています。

▶霊的にも異なるシステムは別にあるということです。ホレブの山の契約をモーセのように握りなさい。なにもないように見えたモーセの人生がそうでなかったということです。だから、モーセしかできないことが発見できたのです。皆さんならではのことが発見できるはずですが、羊飼いであったときにもモーセは自分の財産は1個しかありませんでした。杖一本でした。しかし、その杖一本が紅海を分かれ分かれにしました。10の災いを打ち壊す者になりました。神がそのように働かれたのです。だれも行くこと

ができないところ、だれもできないことを。

2) 絶対不可能→絶対可能

▶神様が皆さんを召された理由を知らなければなりません。絶対不可能を絶対可能にするのです。このために皆さんが召されました。

3) 第 1. 2. 3RUTC 運動

▶過去にすべての問題を、これからは第 1. 2. 3RUTC 運動に変えていくということです。皆さんの事業先にも RUTC 運動を作ってください。従業員がいるはずで、また、子どもたちがいるはずで、今回も韓国の南海というところに私たちのチームが行ってドリームキャンプをしました。本当に喜んでくださいました。皆さんがこの第 1. 2. 3RUTC 運動の契約を持っていると、どこでも御働きを起こすことができます。

▶では、新しい枠はどのように整えるべきでしょうか。それは明日にします。とりあえずは昔のものを壊さなければなりません。そうですね。それでこそ新しくなれます。皆さんがこの契約をよくつかんでほしいのですが、この序論の大きな 3 番をよく覚えてください。私が行った 6 つの教会は、すべての教役者とすべての重職者が自分のポジション争いをしていました。かわいそうでした。力がそれくらいにしかありません。自分のポジション争いをしていました。私はポジション、いりませんでした。現場に向かいました。完全に人を生かす現場牧会を始めたのです。すべてのところどころで重職者や教役者がポジション争いをしていました。ですから、とても簡単でした。なぜなら、他の人はやっていたのでライバルがいません。現場に行っては、皆さんの契約を持って人々を生かすことだけをやるのです。このようにして、すべての地域ごとに人を生かす働きをしてください。人々はよく言います。私たちが異端でどうのこうのと。いいえ、そう言っているところも皆さんのタウンにしてください。モルモン教を見てみてください。モルモン教は完璧に異端です。けれども、彼らは自分たちのタウンを作っています。完全に掌握をしています。私たちは、神の契約を持って掌握するのではなく生かす者たちです。

▶今日の内容をよく理解できなかったとしても大丈夫です。元旦メッセージは、1 年間通して説明していきます。1 年間ずっと流されます。とりあえずはアウトラインを元旦で出して、1 年間ずっとメッセージで整理していきます。皆さんを通して滅びるしかない枠が完全に壊されて、新しい枠が作られ祝福の年になっていただきたいと思います。

▶とりあえず、今日からスタートしてください。異なるシステム。単独システム。第 3 システム。私はモーセのようにホレブの山の時間を作ろう。そして、そうしたあとに私なりのシステムが出てきます。すると、過去、私が問題だと思っていたそれが世界を生かすものになれるということです。間違いありません。皆さんの献身と私の献身が全世界のレムナントを生かす働きになるはずで、すでに始まっています。こうして来年度は、より大きな主の働きが皆さんにあるでしょう。この契約をつかんでいただきますよう、主イエスの御名でお祈りします。

(祈り)

神様、感謝します。私たちの目を開いてください。いま、全世界は苦しんでいます。その枠を壊していく新しい契約を与えてください。そして、新しい答えに預かる証人となりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。